写真1　真田濠（上智大学グランド）

近隣散策

真田濠

真田濠（真田堀）は、江戸城最後の工事として徳川家光が寛永13年（1636）の天下普請の際に、現在の四ッ谷駅周辺の四谷見附橋から喰違見附までの区間を開削したお濠で、上田藩主の真田信之らに命じて開削させたため、その名がつきました。

江戸城西側の都市形成の骨格を築いた一大事業であり、江戸城外濠の中でも高い台地にあることから、江戸城防御の最大の要でもありました。

明治時代における鉄道の開通や戦災瓦礫の廃棄場となったため、昭和24年（1949）濠は埋め立てられ、現在この区画は北半分が四ッ谷駅、南半分が上智大学のグラウンドの敷地になっています。

濠の内縁の土手上は遊歩道となっており、春には桜が咲くので絶好の散策スポットになります。

この桜は、昭和30年代に上智大学の学生有志や、紀尾井町の料亭からの寄贈によるものです。

土手の遊歩道の終点が喰違見附跡となり、眼下には再び水面（弁慶濠）が現われます。周囲には迎賓館や赤坂御用地などがあります。

参考文献
真田宝物館●URL　http://www.sanadahoumotsukan.com/
麹町界隈わがまち情報館●URL　http://koujimachi.net/

写真2　寄贈による桜並木